

自動車と安全



乳幼児では自動車乗車中の交通事故死者・重症者のしめる割合が他の年齢に比べて高くなるため、道路交通法では、チャイルドシートを着用しない6歳未満の幼児を乗せて運転してはならないことが決められています。しかし、令和元年の警察庁の調査では、チャイルドシートの着用率は約7割にとどまり、交通事故で死亡した子どもの約8割が、チャイルドシートの不適正使用・不使用と関連していました。

応急処置のポイント



まず 119番通報して、救急車を呼びましょう。

1 観察

顔色を観察しつつ、体全体を見回して傷がないかを観察します



2 圧迫止血

傷から出血が続いている場合には、ハンカチなどで圧迫止血を試みます



3 声かけ

声をかけて意識の有無を評価します



大きな声で呼びかけて
反応がない場合

4 心肺蘇生

心肺蘇生を行いながら救急車を待つ必要があります



家庭での事故(傷害)予防のポイント

6歳未満の幼児を車に載せる時はチャイルドシートを必ず正しく使いましょう



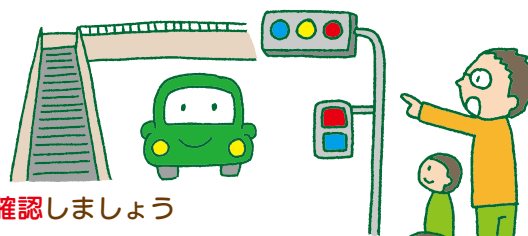
チャイルドシートの正しい使い方 (JAF)



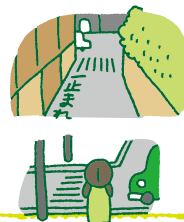
あなたのチャイルドシートは大丈夫ですか？
JAFが教える「チャイルドシートの正しい取り付け・着座方法」



歩行中の事故を防ぐため、小学校に入る前から通学路や公園など子どもの行動範囲と一緒に歩き繰り返し交通ルールや安全な歩き方を確認しましょう



子どもと大人では、目線の高さが違うので、子どもの視点から交差点や横断歩道、見通しの悪い場所などの危険箇所を一緒に確認することが大切です



車内置き去りを防ぐため、自動車から降りる際は後部座席を確認することを心がけましょう
スマートフォンなどを後部座席にあえて置くことも予防となります



実際にあった事例

助手席に進行方向後ろ向きに設置されたチャイルドシート着座中の交通事故 Injury Alert (傷害速報) No.44
7ヶ月の女の子を助手席に、進行方向後ろ向きに設置されたチャイルドシートに座らせていたところ、停車中の前の車に衝突しエアバッグが作動した。頭蓋骨骨折と脳出血の重傷を負った。

主治医からのひとこと